

第1回 女性連合・私たちのひろば（オンライン）記録

第1回 5月14日（土）10：00～、15日（日）14：00～

<https://us02web.zoom.us/j/84739930412?pwd=Z1Z5MEYreEovdWNyM2JoYmVrOUlvQT09>

ミーティング ID: 847 3993 0412 パスコード: 697467

（内容案）司会：吉高 記録：戸井田（14日）、大竹（15日）

プログラム

（30分）

- ・開会：あいさつ、祈り、録画について
- ・「検討チーム」目的・任期とメンバー紹介
- ・年間テーマ予定
- ・「私たちのひろば」の目的
- ・今回の「ひろば」のテーマと時間配分確認

（45分）

- ・『世の光』「時代の転換点4月号、5月号」（補足説明：米本4月、臼井5月）
- ・懇談の時：質問、意見、コメント

（15分）

- ・次回の「ひろば」予定について（7月9・10日？）
- ・お願い：コメント・意見などFAX、HPから。女性会・教会に共有を。
- ・閉会：あいさつ、祈り（写真？）

記録

14日（土）10：00～11：30

参加者（途中より、途中まで含む、スタッフ含む）：36名

Zoom録画記録あり 書面記録：戸井田敦子

- ・開会：あいさつ、祈り、録画について
録画についての承認のお願い
挨拶・祈り 吉高会長
- ・「検討チーム」目的・任期とメンバー紹介
女性連合の歴史を振り返り、ハンドブックに掲載されている理念・活動・規約・財政などについて検討していく。同時に、連盟も機構改革に取り組んでいる中で、連盟との協働を行っている。（国外伝道検討委員会、伝道者養成検討委員会）改革内容については、福岡での総会（2023年度）に、議案として提案していきたいと考えている。
- ・年間テーマ予定

4月9日：世界伝道・祈祷週間 / 推進と連盟との協働について
5月28日：同上 / BWA世界祈祷日 用い方
6月18日：名称とメンバー構成
7月23日：総会・信徒大会について
8月20日：組織体制：役員・実行委員（地方連合）
9月17日：『世の光』
10月8日：小羊会・キャンプ
11月19日：献身者デー・奨学金
12月10日：沖縄（命どう宝）の日
1月21日：事務所体制：会計/会費/誌代・固定費（人件費）等
2月18日：同上
3月18日：予備

・「私たちのひろば」の目的

検討チームでの話し合いを広く共有し、ご意見を聞き、検討チームにフィードバックして検討を重ねていくこと。

・今回の「ひろば」のテーマと時間配分確認

・『世の光』「時代の転換点 4月号、5月号」（補足説明：米本4月、臼井5月）

各号の「時代の転換点に立って」を読み、執筆者より補足説明を行った。

（4月号）

2021年度の会計監査を昨日終了。

財政については、非常に厳しいとの危機感を共有。

財政危機が表面に出てくるが、私たちは世界伝道と後継者育成を2本の柱として活動してきた。大切に100年積み上げてきた活動をこれからどうしていけばよいのか、また、連盟との協働をどのようにしていったらよいのか、と考えさせられている。

（5月号）

私たちは、世界祈祷週間献金を「集める」ことに心を砕いてきたが、どのように使われているのかにもっと注力する必要があるのではないか。今までの連盟と女性連合の宣教師派遣における構造では、女性連合は派遣に関する意思決定には参与することが出来ず、また、責任を果たすこともなかった。現在の状態で私たちは、いったい何が出来るのか、ということを考える。出来る・出来ない、と二分化することではなく、私たち自身が何が出来るのか考え吟味していくことこそが、主から問われているのではないかと思う。

・懇談の時：質問、意見、コメント

（4月号）

- ▶ 編集委員もさせていただいているが、その場でも課題を共有している。問題として、高齢化、若年層の活字離れなどがある。その中で、『世の光』の良い所を残しつつ、変えていくべきところは変えていく必要があるのかなと思っている。魅力ある『世の光』を作っていく、そして上手にアピールしていくことが大切ではないかと感じている。
- ▶ 財政状況がシミュレーションで明確になって感謝。これは女性連合に限らず、全国の教会の実態を表したものだと思っている。諸教会がこのことをどのように自覚しているのか。小さくなるのが悪いことではないのだが、教会がその地域で立っていく、というのには多くの方が集うということも必要だと思う。このままいけば、キリスト教会は、教派を問わず、規模が半分になる、また、教会がなくなっていく、という現実があるだろう。また、若い人たちと私たちの世代とのギャップがあることで、若い人たちが教会になかなか来ないという中で、私たちがどのように若い人たちにアピールし、一緒に教会を作っていくにはどうしたらよいかと思わされている。

(5月号)

- ▶ 意思決定に女性連合が入っていないということには、一つの課題があったと思うが、昔は宣教委員会があり、私自身はそのメンバーであった。その中で国外伝道のことでも話され、意見は言ってきたつもりであるから、何もしないで委ねてきたということではないと思う。また、女性たちが連盟総会での代議員になれない、ということを知ったことがあるが、私たちが連盟の施策に対して意見を言うことができるのは、総会の場しかない。女性が代議員になれなくても、教会の代議員なのであるから女性たちの意見を託すこともできたはずで、女性たち自身が消極的であったということも否めないだろう。私たちは、連盟を構成するメンバーであり、同時に女性連合のメンバーであるというところは難しい所だと思うが、意見を言う場が全くないわけではなく、それを利用してこなかったのは、反省としてある。
- ▶ 今まで連盟の決定に対して、私には、違和感はなかった。世界祈祷週間献金を勧め、やってきたことは間違いだったということなか。
- ▶ 決定権がなかったことについては、やはり今までの時代の価値観だったのであろう。そして今回提示されたことが、今の世代の考え方なのだろうと思う。別の切り口で言えば、新しい方や転会してこられた方などお迎えしたいと思う方に、女性会は教会だけのものではなく、女性連合につながって国外伝道という大きな目的があってささげている会なんですと説明し、女性連合の働きを伝えている。
- ▶ 地方に行けば行くほど、女性連合や連盟からの発信は少しずつ遅れて広がっていくものだ。この問題は、女性連合だけのことでなく、教会、連盟の問題でもある。諸教会に、どのような形でも良いから、この課題を少しずつ伝えていかななくてはならない。

- 私の教会では、壮年会が数人、女性会は私一人である。一緒に女性会をやっていた方が老人ホームに入ってしまう、『世の光』をストップしている。小さな人数で礼拝の前に学び会をしているが、地域の人たちと礼拝できたらなと心から思う。
- 「女性連合はもうなくなるのですか」とか、教会のジェンダー意識が膨らんできて「各会がなくなった」などを身近に聞いている。今まで女性として女性会というグループで活動を支えてきてくださった方々は、不安や危機意識を持っている。今まで女性会を引っ張ってくださった方は、やはりその時々につきり意見を伝えてきたと思う。しかし、今教会の代議員を送り出す、という意識が大分変わってきた。連盟の機構改革の中で、女性会だけでなく壮年会もだが、どのように連盟の活動にコミットしていくのか。今までの活動を否定されたように感じ、私たちの活動は何だったのかという思いにならないように、機構改革は丁寧に行っていかなければならないと考える。
- 総会で意見は言えるが、総会や総会に提案する理事会の提案決定のプロセスの段階で「女性連合」としての意見を出せないということは、構造的問題なのではないか。連盟総会で女性代議員が増え意見が言えても、それはあくまで、連盟のメンバーとしてのことになるであろう。
- 私たちは、強制されたのではなく、女性連合の総会で決定して、世界伝道に参与し連盟に献金を捧げることにして活動してきた。地方の教会にいても、世界伝道を通じて、世界への伝道につながっているという喜びを感じてきた。しかし、今まで指摘されたように、意見を言える場があったのに声を上げず、献金の使途についてあまり関心を持ってこなかったことを反省する。今までの道に感謝するとともに、その責任を問われていると思う。
- 教会によってかなり状況が違うので、同じように活動は出来ない。しかし違う現実があるからこそ、女性連合という組織があって皆で関われるということが大事なことなのだと感じている。
- 村上幹事から米本幹事に変わり、連盟事務所の中でいろいろな経験をされ、課題も浮き彫りになってきたのだと感じる。特に昨今ジェンダー問題が大きくなってきた。振り回されずに、女性連合の使命は変わらないと思うし、変わってはいけないと思う。その方法や関わり方は変わっていくとは思いますが、私たちの足元をしっかり固めていくことを、皆さんと一緒にやっていきたい。このような意見交換や協議をこれからも重ねていきたい。
- この会であるが、『世の光』誌で初めて知ったが「気軽にさんかできるよ」というアピールをしてほしい。そして、このようなこと・ものが必要だ、ということを発信してほしい。このような気軽な場所で発信することによって、お互いを知り、折り合い、協力していくことが出来るのではないか。

吉高会長より、感想やコメントを、HP や FAX でお寄せいただきたい旨お願い。

次回の案内：7月9日（土）、10日（日）

閉会の祈り：大竹千賀副会長